



エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

2022年2月22日

環境大臣 山口 壯 殿

東急建設株式会社 代表取締役社長

寺田光宏

東急建設は、「わたしたちは安心して快適な生活環境づくりを通じて一人ひとりの夢を実現します」の存在理念のもと、環境に配慮した建設活動の推進による生活環境の整備を通じ、快適で持続可能な地球環境の保全に全力をあげて努めてまいります。

1 脱炭素社会の実現への取り組みを推進します

自社直接事業活動による温室効果ガスの排出量（SCOPE 1・2）を、2018年度を基準年とし2030年度に総排出量で30%、2050年度に100%削減します。またサプライチェーンからの温室効果ガス排出量（SCOPE 3）については2030年度に総排出量で30%削減します。

- SCOPE 1・2の削減策
 - ① 工事現場で使用する電力を2030年度までに100%再生可能エネルギー由来電力に変更します。
 - ② 本社・支店等の事業所及び所有不動産での使用電力を2030年度までに100%再生可能エネルギー由来の電力等に変更します。
 - ③ 工事現場での省燃費運転の実施、ハイブリッド建設機械の導入推進とともに、電動機材が市場調達できる場合は、内燃機関からの転換を進めます。
 - ④ 工事現場で使用する照明を2025年度までに、全ての蛍光灯や水銀灯をLED照明に切り替えます。
- SCOPE 3の削減策
 - ⑤ 建設資材製造時の環境負荷を低減するため、主要資材であるコンクリートについて環境負荷低減型材料への技術開発を進めます。
 - ⑥ ZEBを始めとする省エネルギービル化を推進し、2030年度に自社設計の事業系建物で、ZEB Ready以上の適応50%を目指します。また既存ビルのリニューアル時のZEB化提案も同時に推進します。

2 循環型社会の実現への取り組みを推進します

- ① 新設及び新築工事での部材のプレキャスト化、施工のユニット化などを推進し、プラスチックも含めた全ての廃棄物の発生抑制・再利用・再資源化を図り、2030年度に最終廃棄処分率を3%以下、2050年度にゼロを目指します。また、特定建設資材廃棄物の再資源化率100%の達成を目指します。
- ② 事務所内でのワークフロー改善と書類の電子化によるペーパーレス化で廃棄物の発生抑制に努めます。

3 生物多様性保全に向けた取り組みを推進するとともに環境教育を充実します

- ① 全ての工事実施にあたり生物多様性に関する実施可能事項を検討し、保全に取り組みます。
- ② 生物多様性に関する認知度を向上させ、2025年度までに全社員に徹底します。
- ③ 生物多様性の改善・維持に向け「雨水を貯める、使う、自然に還す、生き物が棲む、育つ」をコンセプトに実証実験を行っているグリーンインフラ施設内で、ヘイケボタルの産卵・孵化から成虫へと成長した状況が確認され累代育成に成功したことより、これらのノウハウをもとに都市部での自然環境の創出を推進します。
- ④ 木造建築推進に向けた構造・工法、建築部材の研究開発により、建築による環境負荷の低減を図るとともに、国産木材使用量の増大に努めることで、山林の荒廃の防止につなげます。
- ⑤ 植樹ボランティア等、環境保全活動への参加を推進します。
- ⑥ eco検定の全社員取得を2026年度までに達成することを目指します。

4 良好な環境を維持するためサプライチェーンへの働きかけを推進します

- ① 自社での工事施工に係る専門工事会社に対して、施工時の省エネルギー活動、廃棄物発生抑制と資材の有効利用、プラスチックの適正廃棄の徹底などを求めます。
- ② 専門工事会社事業所への100%再生可能エネルギー由来電力への変更の働きかけを推進します。
- ③ 建物発注者に対し、再生可能エネルギー由来電力の導入の働きかけを推進します。

東急建設は、上記の取り組み状況を確認し、環境省に報告するとともに自社統合報告書にて公表します。

「建てる」を超え、未来を生みだす。



東急建設